



(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月分)

### 【平成 29 年 3 月】

2 月 20、日住民の健康づくりで協力しあうことを目的に、「日本健幸都市連合」が発足され、本市も参加しました。当面は、全国およそ 80 の自治体で活動を行います。

市民が「健康」で「幸せ」を感じる「健幸」のまちづくりは私の公約の一つです。また、超高齢社会を迎える 2025 年問題の対策にも健康寿命の延伸は大切です。

スマートウェルネスシティを推進していきますので、皆様も健康への取り組みをお願いします。

追伸 日本将棋連盟の新会長に、八幡市出身の佐藤九段が就任されました。

逆風が吹くとも予想される中、就任のご挨拶で、「時代に即して変えるべきところは変え、残すべきところは残す」とおっしゃっています。

私も市政を進めるにあたり気を引き締めなければと思っております。

今後ますますのご活躍をご期待いたします。

## 【平成 29 年 2 月】

「市民協働」を基本に、市長として 2 期目をスタートさせていただき、早や 1 年が経とうとしています。

本年、丁酉（ひのととり）の年 11 月に、市制施行 40 周年を迎えます。干支の由来どおり、これまでの実り（成果・結果）を振り返り、それを活かして新たな一歩を進めていかなければなりません。

未だ記憶に新しいと思いますが、昨年 4 月の熊本地震では、災害対応の拠点となる庁舎が半壊などで使えなくなるという被害が発生しました。本市では厳しい財政状況の中、子どもたちの命を守るために、小・中学校などの耐震化をいち早く進めました。しかし、庁舎は調査の結果、耐震補強が必要ですが、未実施です。もしもの時の市民の皆様生命と財産を守る拠点として、早急に対策を講じていかなければなりません。

今後も将来の八幡市に日々思いを馳せながら市政を考えてまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

## 【平成 28 年 12 月】

日課のウォーキングも日に日に落葉を踏み締める音が心地よく、時の流れの速さに焦りさえも感じています。

市役所では、毎年この時期、来年度の予算編成作業で慌ただしい日々を過ごしています。

平成 27 年度の国勢調査人口がピーク時の平成 7 年度より 3 千人減少の約 7 万 3 千人となり、この状況は今後も拍車がかかってくると予測されます。これは、税金はもとより市の財源を縮小させることにつながり、歳出の見直しが必要となってきます。

しかし、地域の活性化や防災拠点ともなる庁舎の耐震・老朽化対策などの財政需要も多く、施策に優先順位をつけつつ、我慢すべきは我慢をし、公約実現を目指します。

これからも市民の皆様とともに考え、歩みを進めてまいります。ご協力をお願いします。

## 【平成 28 年 11 月】

私事ですが、先日鉄棒にぶら下がるまではよかったです、一度も体を持ち上げることができませんでした。

50 代では 1、2 回はできたのに、とショックでした。しかし、トレーニングをしていないので、筋力は衰える一方で、体重は増えていますから、当たり前のことです。これからは歩くとともに、無理のない範囲で筋トレをしなければと改めて思ったところです。

10 月にあった全国都市問題研究会議で、筑波大学の山海嘉之（さんかいよしゆき）教授が、人間の筋肉に脳の命令を伝える医療ロボット HAL を開発・実用化したこととともに今後の展望を熱く語っておられました。歩行器でも介助なしでは歩けなかった方が、数カ月後には歩行器を使って一人で歩けるようになっていくビデオには感動しました。

介護医療ロボットの今後の進化と普及を願いつつ、元気な人は、その状態を維持するため無理のない運動・筋トレをしましょう。

## 【平成 28 年 10 月】

物事に取り組むとき、「計画的に」と言われます。一方で、「目的」と目的実現のための「手段」との関係ではどうでしょうか。

私は、この目的と目的実現の手段との関係は、相補う関係にあるとともに実現過程では、「最良の手段は最良の目的である」（A・グラムシ）と思っています。明確な目的も手段に規定されていることが多く、目的が良いから手段の稚拙さは許されるということは少ないと言えます。市政についても同じだと思います。

今月から八幡市の将来像を描く第 5 次の基本構想・総合計画の策定作業が本格化します。市民の皆様や学識経験者そして職員の力を合わせて、市の将来像、それを実現するための物的基盤の形成と施策を考えていかねばなりません。

「言うは易く、行うは難し」。皆様のご助力をお願いします。

## 【平成 28 年 9 月】

今夏は例年になく暑い日が続いています。体力の低下が余儀なくされる中、東日本が台風の被害に見舞われました。

本市でも数年前に集中豪雨の被害に見舞われたのは記憶に新しいところですが、遡ること約 80 年前の昭和 9 年 9 月 21 日、室戸台風により八幡小学校の児童、教員併せて 34 人の命が奪われました。忘れ得ぬ八幡の悲しい、悲惨な事故です。

学校の建物は、木造からコンクリート造に変わるなど、昭和初期に比して災害対策はかなり水準に達している一方、地域でも防災対策を行っていただいておりますが、この間の経験からも十分とはいえません。

9 月に入り、本格的な台風シーズンを迎えます。防災ハザードマップ、避難所の再確認など、事前準備をお願いします。生命を守るために冷静な判断をお願いします（広報やわた平成 28 年度 9 月号 4 面に関連記事あり）。

## 【平成 28 年 8 月】

「初心忘るべからず」には、「是非の初心忘るべからず。時々（じじ）の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。」という口伝がある旨、世阿弥は「花鏡」に記しています。

71 年前、米国の広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦、そして「終戦」というように 8 月は、私たちが戦後の平和を考える原点＝初心であると思います。

米ソ冷戦からパックスアメリカーナ（アメリカの力による平和）へ、最近では、I S（イスラム国）と自称する組織などによるテロ、先進国内での貧富の格差拡大、中露と欧米との対立などがリスク要因といわれています。私たちはこのような状況を踏まえ「時々」の初心を考えなければなりません。

8 月 5 日の早朝、平和大使として中学生の皆さんが広島へ向けて出発します（広報やわた平成 28 年 8 月号 4 面に関連記事あり）。

暑い中ですが「是非の」、「時々」、「老後の」平和＝安全・安心を改めて考えたいと思います。

## 【平成 28 年 7 月】

「市町村広域災害ネットワーク首長会議」、「全国防災・危機管理トップセミナー」に参加しました。

自然災害での死者・行方不明者数は、災害対策基本法が制定された昭和 36 年前後の年間平均数千人から現在では 100 人規模にまで減少しています。

これは、ある意味で防災水準が昭和 30 年代と異なり、それなりの水準に達した結果で、これからは、市民と行政がそれぞれ努力する時代になったとのことでした。

市としての防災対策とともに、市民の皆様も地震が起こったときどうするのか、水害時の対応はどうするのか考えていただくことが不可欠です。

これから本格的な出水期を迎えます。局地的豪雨で各地に被害もでています。かけがえのない「命」を守ることが何よりも大切です。ともに支え合いましょう。

## 【平成 28 年 6 月】

「人の手で守る 伝統の味」～お茶の京都～

新茶の収穫が真っ盛りの 5 月 16 日、市内碾茶（てんちゃ）工場と茶園の摘み子さんの激励に伺いました。

碾茶は、茶道などで使う抹茶の原料で、本市のものは、全国のお茶の中でも最高級の品質を保っています。

製造工程では、機械化が進みながらも、茶葉を蒸す温度や時間などは、良い味を出すために職人の勘が物を言うそうです。

また、覆いをかけられた茶園では、摘み子さんが手摘みにより茶摘みをされていました。

この日は、西川さんの「茶揉み歌」も披露され、さわやかな香りに包まれながら、手揉みの体験もさせていただきました（広報やわた平成 28 年 6 月号 10 面に関連記事あり）。

それぞれ、今も確かな人の手が、伝統の味を守っています。

## 【平成 28 年 5 月】

4月14日以降、熊本県熊本地方が大地震に見舞われました。被災されました皆さま、関係者がいらっしゃる皆さまには心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

自然災害の脅威を目の当たりにするたびに、被害を最小限に食い止めるための準備が整えられているか不安を感じます。それは、行政の最も重要な使命は、市民の生命、財産を守ることだからです。

いつ、どこで、どんな自然災害が発生するか分かりません。不断の取り組みを進めてまいりますので、市民の皆さまには災害時における初期行動を是非とも再確認してください。

この度の大地震に際しまして本市でも、義援金の募金箱を市役所、各公共施設に設置しています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

## 【平成 28 年 4 月】

背割堤の満開の桜が、八幡市に春本番を告げてくれています。さあ、新年度のスタートです。

さわやかな春風が吹く背割堤は、全国でも有数のお花見スポットとして、多くの来訪者でにぎわっています。

流出していた流れ橋も3月27日に約1年8カ月ぶりに復旧し、ようやく渡れるようになりました。

また昨年、流れ橋を望む浜茶の景観は、「日本茶800年の歴史散歩」のストーリーを語る文化財群のひとつとして日本遺産に認定されています。

国宝石清水八幡宮にも多くの方が訪れています。

人と人のふれあいが、まちを活性化してくれます。

私も2期目のまちづくりのスタートを切りました。初心を忘れず、頑張りますので、皆さまのご支援よろしくお願いいたします。